

南蛮美術

こんにちは。私はアレシヤンドレです。ポルトガルから来ました。今日は南蛮美術についてお話しするつもりです。南蛮美術はおもしろいと思います。私は南蛮美術を見るのが大好きです。たのしいし、それにきれいな物がたくさんありますから。

まず、南蛮美術は何でしょう？はかんたんですので、みなさん美術は分かります。でも、「南蛮」はどういう意味でしょう？むかし、15世紀に、ヨーロッパ人は日本へ来ました。ポルトガル人は一番早く1543年に木で作った船で来ました。ヨーロッパからアジアまで海の道がポルトガル人によってつげんされました。ですから、船で遠くまで行けるようになりました。ポルトガル人は南から来たので、日本人に「南蛮・“SouthBarbarians”」、とよばれました。ですから、南蛮美術は南蛮人が持って来た美術です。それと、ヨーロッパ美術をまねて日本人が作った美術だと思います。

つぎに、南蛮美術はいつ生まれたでしょう？キリスト教のせんきょうし(“missionary”)フランシスコ・デ・ザビエルさん(S. FrancisodeXavier)が1549年に日本へ来たあとで、南蛮美術が生まれました。日本人はポルトガル人の持つて来たためずらしい物がとても好きでした。たとえば日本のだいまようは(“JapaneseFudaiLord”)カステラ(“Castelo”)やてつぼう(“firigun”)がほしかったです。ですから、ポルトガル人は長崎に会社と教会をつくることができました。

日本人は南蛮人に会うことがうれしかったです。それから、南蛮美術は大きくなりました。ポルトガルもスペインもイタリヤもとても遠くにありました。たとえば、むかし、一番速くても、ポルトガルから日本まで黒い木で作った船で2年ぐらいかかりました。それから、日本の芸術家はヨーロッパの方法をまねて美術品を作りはじめました。たとえば、油絵です。その方法を教えるために、ヨーロッパから美術の先生が日本へ来ました。たとえば、アレサンドロ・バリグナノと(1579年)“AlessandroValignano”)シオバニー・ニコラウは(1583年)GiovanniNicola)美術の学校を作りました。また、日本の芸術家はだんだん上手になりました。京都の狩野派(“KanouSchool”)は一番大切な南蛮美術の学校だったようです。たくさんさんの美術品がきれいに保存されています。たとえば、漆、絵、陶器、タペストリー、家具、屏風などです。この屏風にはじめてヨーロッパ人と日本人が会うところがかいてあります。この屏風に新しい日本人とヨーロッパ人を見ることが出来ます。ヨーロッパ人はなは高くて、長いです。その人は目が大きいです。そして、黒い船が長崎へ着くのも見えます。かのうのぶかたは(“Kanounbukata”)たぶん一番有名な南蛮芸術家だったと思います。ヨーロッパの新しい方法も日本の古い方法も使えました。それで、じぶんのスタイルをそうぞうしました。たとえば、たぶん新しい油絵で屏風を書く方法はのぶかたによつてはつめいされたとかんがえられています。日本の南蛮美術の作品の質はよくなりました。1584年にヨーロッパの美術はもう日本にゆいゆうされました。そして、すこしあとで、日本の南蛮美術はヨーロッパにたくさんゆいゆうされました。おもしろいですね。でも、1614年徳川將軍派は(“Tycoon”)ポルトガルとスペインのキリスト教を禁止しました。そして、南蛮美術もキリスト教にかんけいがあるものはあぶなくなりました。ですから、たくさんさんの南蛮美術品がこわされました。でも、まだ少し見られます。どこで南蛮美術が見られますか。大阪にすばらしい南蛮美術館があります。またリスボンの古い美術館にもいろいろ南蛮美術の作品があります。

さいごに、南蛮美術の大切さはどうやってはかるか、していますか。南蛮美術はほんの少しの日本美術の歴史です。たしかに、日本の歴史の中ではとてもみじかいあいですが、でも、日本美術とヨーロッパ美術がはじめてあったじだいの大切な美術です。日本の美術とヨーロッパがはじめて出会いました。日本人は新しい世界を見せてもらいました。南蛮美術に会ったあとで、日本の世界は大きくなりました。たとえば、新しい世界の地図があるのは大名だけでした。その新しい地図ではじめに全世界が見られます。ですから、もしかしたら南蛮美術は“めいじいしん”(MeijiRevolution)のさきがけ春(Spring)だったかもしれません。「しかし、その話しはほんとうかどうか、わかりません。もういちど考えてみます。」かんたんですが、これでおわります。では、ご質問をよろしくおねがいします。

